

木祖村議会だより

道しる



あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いたします



令和6年2月8日

No 184



(写真：湯川喜義氏 他提供)

令和6年1月14日(日) 5・6・7・9区 11区 どんど焼き

令和6年 新年のごあいさつ

木祖村議会議長 栗屋正一

令和6年、強さと知恵の象徴と言われております辰年、龍の年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃は、木祖村議会に対しまして、ご理解とご協力を賜り、議員一同深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症分類の5類への移行により、社会がコロナ禍以前の状況に戻りつつある今日、再度気を引き締めてまいりたいものです。とはいうものの村では、各種行事が復活し楽しくワイワイやる機会も増えてまいりました。やはり、人が集まり何かするという事により、村の活気、元気が出て、地域の連帯感が生まれてくるものと思います。

世界ではロシアによるウクライナ侵攻や、パレスチナ自治区ガザでのイスラエル軍とハマスの戦闘により傷ついた人々、特に子ども、破壊された建物等をTVで見ても悲惨な有様が伝わり、心が痛む毎日です。戦争が1日も早く終結することを願ってやみません。

戦争が経済に大きな影響を与えております。我が国においても食料、日用品、エネルギーといった商品の高騰が消費者や経済を直撃しております。

デフレ対策は木祖村だけで解決をする問題ではありませんので国の経済対策に期待し、一刻も早い解決を望むばかりです。

木祖村が抱えている課題もたくさんあります。やぶはら高原スキー場は在り方検討委員会で3シーズンの様子を見たとした3シーズン目が来ています。伝統があり、村の雇用の場でもあり、リピーターが多く愛されているスキー場が村民の皆様が納得のできる形で良い方向が示されますよう今後の展開が期待されるところです。

木祖村の人口は2600人を割り込み、減少の一途をたどっており、空き家は増える傾向にあります。人口が減っても村が元気に輝き、どのように、次の世代に引き継ぐかが大きな課題です。それにはお年寄りの健康寿命を伸ばし、若者の働く場所があり、子育て世代が安心して子育てができ、喜んで住める安心・安全な村づくりが大事です。

私ども議会は、皆様の声に耳を傾け村政にしっかり届ける努力をしていきます。ご意見ご指導を賜りますようお願い申し上げます。行政と議会と村の皆様が一丸となり源流の里を盛り立てていきましょう！

昨年はコロナ禍とともにインフルエンザも流行しました。これからの本格的な冬シーズンを迎え、村の皆様、お一人、お一人が、健康に留意をされ残り多き、明るいな年になりますよう心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和5年 11月会議

令和5年 11月27日(月) 再開
11月27日(月) 散会

令和5年度木祖村一般会計補正予算(第4号)

木祖村議会は11月27日(月)再開され、報告2件、議案6件(条例改正3件、補正予算3件)について慎重審議し原案通り可決し、同日散会した。条例改正は人事院勧告に基づく給料表等の改定、令和5年度一般会計補正予算(第4号)は、人事院勧告に基づく人件費の補正で歳入歳出それぞれ12,705千円追加し、総額を3,127,106千円とした。

11月会議 議案など審議結果

番号	件名	採決等結果
報告第6号	損害賠償の額の決定について	報告
報告第7号	損害賠償の額の決定について	報告
議案第57号	木祖村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第58号	木祖村議会の議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第59号	木祖村特別職の職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第60号	令和5年度木祖村一般会計補正予算(第4号)	可決
議案第61号	令和5年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第3号)	可決
議案第62号	令和5年度木祖村下水道事業会計補正予算(第2号)	可決

令和5年 12月会議

令和5年 12月12日(火) 再開
12月15日(金) 散会

令和5年度木祖村一般会計補正予算(第5号)

木祖村議会は12月12日(火)再開され、議案5件(条例改正2件、指定管理者の指定1件、変更請負契約の締結1件、補正予算1件)について慎重審議し原案通り可決し、12月15日(金)散会した。令和5年度補正予算は、低所得世帯支援、一般世帯商品券交付、村民スキー場シーズン券補助事業、地域振興バスに係る車両購入費用、宮の森水路改修工事費等に伴う予算とし、歳入歳出それぞれ60,606千円を追加し、総額を3,187,712千円とした。

12月会議 議案など審議結果

番号	件名	付託委員会	審査結果	採決結果
議案第63号	木祖村手数料徴収条例の一部を改正する条例について	厚文	可	可決
議案第64号	木祖村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	厚文	可	可決
議案第65号	木祖村農林水産物直売所・食材提供供給施設、木祖村農産物加工センター指定管理者の指定について	産経	可	可決
議案第66号	建設工事変更請負契約の締結について	産経	可	可決
議案第67号	令和5年度木祖村一般会計補正予算(第5号)	厚文・産経	可	可決
受付1番陳情	年金制度における外国人への脱退一時金の是正を求める意見書の採択を求める陳情	厚文	不採択	
受付2番陳情	令和5年度木祖村連合自治会陳情書	厚文・産経	継続審査	
受付3番陳情	イスラエルとパレスチナの戦闘の即時停止と平和的解決に全力を尽くすことを日本政府に求める陳情書	厚文	採択	可決 (意見書送付)

陳情の内容

■採択された陳情

- ・発議第8号 「イスラエルとパレスチナの戦闘の即時停止と平和的解決に全力を尽くすことを日本政府に求める意見書の提出について」 提案議員 安原 千佳世
以上、陳情を採択し地方自治法第99条の規定により関係先に意見書を提出した。

令和6年 1月会議

令和6年 1月17日(水) 再開
1月17日(水) 散会

令和5年度木祖村一般会計補正予算(第6号)

木祖村議会は令和6年1月17日(水)再開され、議案1件(補正予算1件)について慎重審議し原案通り可決し、同日散会した。令和5年度一般会計補正予算(第6号)は、低所得者支援給付金事業等で歳入歳出それぞれ8,756千円追加し、総額を3,196,468千円とした。

1月会議 議案など審議結果

番号	件名	採決結果
議案第1号	令和5年度一般会計補正予算(第6号)	可決

厚生文教委員会 総務課 住民福祉課 教育委員会

議案第63号 木祖村手数料徴収条例の一部を改正する条例について

質疑なし

議案第64号 木祖村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

質疑なし

議案第67号 令和5年度木祖村一般会計補正予算(第5号)

問 14人乗り地域振興車両について

答 白ナンバーの車両になる。

問 地域振興車両運転委託先の人員について

答 募集に対し2名の応募があり、退職等の入替はあるが、増員となる見込みである。

問 ひまわり号の利用状況について

答 利用者全体ではひまわり号は減少、デマンドタクシーは増加している。

要望 購入する車両については、手すりやステップ等を設置し、乗り降りしやすい車両として欲しい。

問 伝統芸能の保存について

答 昭和100年プロジェクトと銘打って、残していきたい事業や伝統芸能等を分館単位で出し合い、木祖村映像のタイムカプセルとして、ブルーレイ制作に取り組み、令和7年度の完成を目指して準備を進めている。

問 地方債の補正について

答 今回の追加分と廃止分を考慮した限度額で記載してある。また、起債申請後、県とのやり取りの中で適債性を考慮し、一般補助施設整備等事業債への振替を行った。

問 ネコ繁殖制限手術補助について

答 村内の状況を確認し各地区においても進めていく。また、避妊費用は7,000円から20,000円の費用が必要となり、1匹につき5,000円の補助となる。

要望 ネコと接している村民のケアやねこ会の方々の関わり方を考えてほしい。

産業経済委員会 産業振興課 建設水道課

議案第65号 木祖村農林水産物直売所・食材提供供給施設、木祖村農産物加工センター指定管理者の指定について

問 付記すべき基本的事項について

答 経営の専門家や道の駅運営協議会委員からの外部意見を取り入れていく。また、村との情報共有に関しては、全体朝礼に副村長が参加することとし、毎月の

売上報告に関しても来庁いただき状況説明をしてもらう。

要望 情報共有に関しては議会に対しても行って欲しい。

答 これまで対外的な分野に力を入れ、功を奏している部分もあるが、雇用体制や耕作意欲が高まるよう村民にも目を向けてもらうよう改めて話をした。

・選定結果報告書は、詳細までは記載していないが、社長と役員には直接説明して、理解いただいた上で渡している。

・運営協議会は最低でも年2回程度は開催し、課題等があれば、必要に応じ開催したい。

・遊休農地の解消及び地域の6次産業化の推進について、設立当初の目的も6次産業化を目指していたこともあり、原点に立ち返り改めてお伝えした。

要望 村民は道の駅や加工センターへの期待値が高いので、村民の意見も取り入れて運営して欲しい。

問 とうもろこしの安定した数量確保のために村も入って話をして欲しい。

答 とうもろこしの作付け前に関係者全員が集まり、意識統一を図る場を設け安定した生産体制を確立したい。

問 6次産業化の推進に向けた生産者数の増加について

答 地域おこし協力隊など他地域の情報収集も行い取り組んでいきたい。

問 役員からの借入金について

答 返済済みである。

要望 加工センターについて、年間を通した加工品の確保を検討して欲しい。

問 現在の地域おこし協力隊の状況について

答 とうもろこしに限らず多くの品目を作付けしている。

要望 愛菜の会やしょう漬の会など、後継者育成も考えて欲しい。

議案第66号 建設工事変更請負契約の締結について

問 予算措置について

答 当初予算の範囲内での増額のため、補正予算の計上はない。

問 新葦原浄水場の試運転について

答 総合試運転は年明け1月末から始まる。

議案第67号 令和5年度木祖村一般会計補正予算(第5号)

問 宮の森水路改修工事について

答 県が最大限負担してくれれば、村からの支出はなくなる可能性があり、3月に減額補正することになる。



議会全員協議会の模様



奥原 當 議員

厳しい経済状況は今後も続く、 教育に特別な支援を急げ

答 教育費は非常に大きな課題として認識している

問 国民の実質賃金は30年で64万円も減っている。物価高騰の中、子育て世帯の家計は非常に厳しい状況にある。小中学校の学校徴収金は、小学校で年額7万5千円余、中学校で10万1千円余となっている。これに加え「隠れ教育費」と呼ばれる費用も保護者の大きな負担となっている。村は隠れ教育費を把握しているか。またその金額はいくらか。

教育次長 小学校では鍵盤ハーモニカや裁縫セット等で最大1万6千円、中学校では総合的学習に使う物品等に最大4万円かかる。その他中学校では制服等に8万円、部活動の費用は別途必要。

問 隠れ教育費の保護者負担について村長はどのように支援していくのか。

村長 子育て支援の柱として非常に重要な課題と認識している。まずは給食費や学童クラブの利用料等の負担を段階的に軽減し、その後、学用品等の購入の支援を検討していきたい。

問 経済的に子育てが非常に大変である上に、政府の発表では児童・生徒への虐待が21万人、不登校が30万人に迫る国になってしまった。子育てには特段の配慮が必要ではないか。

村長 村として真摯に対応をしていく必要があると思っている。他にも対応できることがあればしっかり対応していきたい。

急速な人口減少の中で木祖村の 近未来を考える

問 木祖村の人口は2,600人を割り、少ない人口で力を合わせていかなければならない。村の存続には若い世代の発想を取り込んでいくべきである。

村長 若い世代の発想を取り入れていく必要があるということは、議員と同様の考えである。様々な場面で世代交代が進むことは重要な観点であると捉えている。

例えば教育委員や農業委員の改選の際には若い女性を登用した。

問 イノベーションが全く起きていない30年間、若者は必死に生きている。若者世代が一番力が出る。村づくりにしっかり声を活かすべき。

村長 若い人たちがこの村の中で活躍し、自己実現をしながら安定した生活を図っていくことは必要。若い世代との意見交換の機会等を積極的に持つように努めながら、世代交代に関してもどういった取り組みができるか考えていきたい。

パワハラ・セクハラは許されない

問 行政にも伝えてあるがパワハラ・セクハラがある。村長はこのことについてどのように把握しているか。

村長 村内においてハラスメントの事案があるということは聞き及んだことがある。ハラスメントを放置することはあってはならない。村に関係する団体等で発生した場合は解決に向けて村として積極的に関わっていく。

問 副村長に伝えた件についてどのような対応をしたか。

副村長 具体的な内容等について公の場で話すことは差し控えたい。関係する団体でそういう事実があるとすれば、適切な対応をしていきたい。相談体制を作るなど、助言、指導等行っていく。

問 他町村の女性から指摘がされている。村内で噂になっていることを解決しないのは行政の怠慢である。庁内にセクハラ・パワハラについての委員会は設置されているか。

副村長 私を中心とした庁内の相談体制は確立している。庁内で起きるようであれば、連携しながら対応していく。セクハラ・パワハラは看過できない。適切な対応をしていく。



大久保庄亮 議員

結婚・少子化問題の解決、目標のクラス人数は

答 理想は30人超、推移をみれば最低20人が目標

問 朝のドラマで親子の絆こそ最高の宝との場面が映し出されていた。結婚を通して家庭を作り、子どもを残していくことが持続可能な村づくりではないか。マザーテレサは愛情の反対は、憎しみではなく、無関心である、と言っている。村民一人一人が結婚していない人にもっと関心を持ち村民あげて少子化問題を解決していこうではないか。このままだと小学校入学者がゼロになってしまう。事務局を作り担当者を置き、広報を充実させイベント開催に村のあらゆる部署で取り組んではいかがか。目標のクラス人数は。

村長 私自身の思いとしては、1クラス30人を上回る児童生徒数が理想。ただこれまでの児童数の推移に鑑みると最低20人が目標。

美しい田園風景を取り戻そう

問 昔の最盛期の水田地帯面積と比較してみると、現在は1割にも満たない現実である。この現状を打開するために、村内外の力を借りたりしてはいかがか。例えば、保育園児、小学生、中学生に学習の一環として田植をしてもらったり、企業やサークルの方々、役場の職員にも耕作してもらおう。また愛知県の日進市や一宮市の力も借りる。稲刈りまでの管理は事務局で行う。刈り取りしたモミは災害時の備蓄米として利用し、古米になったら困っている家庭に分ける。このような循環体制を作りかつての美しい田園風景を取り戻したらいかがか。

村長 産業振興課で所管をしているが、人が限られている中でなかなか難しいと感じている。体制等を整備する中で、村が抱える課題にしっかりと取り組めるよう検討をしていきたい。



清水えり子 議員

木祖村の「住民に温かく寄り添う」 介護行政を問う

答 生活弱者に寄り添う対策を検討していく

問 いくつかある支援制度中、除雪支援制度は応援を求めている一人暮らしの高齢者等が協力者の賃金を全額負担しているが、それは行政対応として理念に沿うものか、村長の考えは。

村長 除雪支援は、社会福祉協議会に委託している事業で、現状を初めて知ったことから、今後、生活弱者に寄り添う対策を検討していく。

問 加速度的に進む超高齢社会において、家庭における介護の必要性、そのための援助需要にいかにか村として応えていくかは早急の課題であるが、木祖村の介護の現状は。

住民福祉課長 一人暮らし高齢者は223世帯、そのうち要介護者150人弱。在宅介護をしている世帯が107世帯に及ぶ。

問 令和4年中に役場が受けた全体の相談件数331件中、実にその半数以上が介護関係の内容であったが、

制度面だけでなく家族の心情に寄り添う取り組みはあるか。

住民福祉課長 例えば長寿開発センターと連携し、人をつなぐ音楽カフェの開催などに取り組んでいる。

要望 住民に温かい木祖村福祉実現のために以下の取り組みを希望する。

- ①今後増えるであろう相談体制強化に向けた保健師の増員。
- ②サニーヒルきその入所人数削減に伴う入所待ちや在宅介護に対する同じ悩みを抱える家族介護者を孤立させない「つながる場所の提供」。
- ③住民への介護相談窓口、介護の備えを周知する取り組み。

住民福祉課長 提案内容②、③は、令和6年度策定予定の福祉計画で検討していく。



安原千佳世 議員

「有害鳥獣対策・捕獲対策としての ジビエ処理施設」への取組を問う

答 捕獲頭数増により猟友会と連携し研究を進める

問 現在有害鳥獣対策は①緩衝帯整備。②電気柵・ネット設置。③個体数調整である。このうち個体数調整の実績について伺う。埋設処理費用についても伺う。

産業振興課長 猪は73頭、日本鹿は29頭、サルは35頭、報奨金はそれぞれ1頭当たり1万円である。埋設処理費用は石灰等がかかるがそれ以外は特にない。報奨金の中で捕獲者に対応してもらっている。

問 有害鳥獣をただ廃棄するのではなく、地域の資源として活用できないかという提案である。具体的には猪・鹿の食用・ペットフード用の処理加工施設を設置し、細切加工等をして販売するという提案である。こ

の施設については国の補助金制度もある。県内でも長野市・小諸市・阿智村・泰阜村では公設の施設がある。これにより報奨金を引上げて捕獲従事者のモチベーションの向上を図ることにもつながる。また学校給食・民宿・道の駅・ふるさと納税の返礼品等にも活用できる。

産業振興課長 これまで村として検討した経過はおそらくないが、対象となる猪・日本鹿については捕獲頭数が少なく安定的な供給と一定の需要が不可欠である。また猟友会の協力も必要であり、今後捕獲頭数が増加した場合は研究を進めたい。



田上芳朗 議員

村長の1年の自身の評価と2年目の目標について

答 概ね公約の7割近くは実現できた

問 村長に就任して1年が経ち、2回目の新年度予算編成の時期となった。公約の中で達成したもの、道半ばのもの、色々あると思うが、どのように評価しているか。

村長 村政を担って1年経ったが自己評価を昨年10月に行った所信表明の項目ごとにお答えする。

- ・「安全安心な村づくり」は毎年災害に見舞われる箇所への対応として、五月日地区のクルマ沢と宮の森地区用水のバイパス化事業化、鳥居峠の坂ノ下沢は県の調査箇所に入れてもらう等着実に進んでいる。他にも対策が必要な箇所がいくつかあり、引き続き対策を進めていく。また、村民生活への支援として、一人1万円の商品券配布、水道基本料金の減免を実施、水道管の敷設替え計画を現在策定中。指定避難所の見直しは、村全体を網羅する洪水ハザードマップは作成中のため来年度以降となる。
- ・「女性や若者が活躍できる環境づくり」は、社会人として村に残った学生に支援金を給付する制度を作ったが該当案件はない。病児・病後児保育は、先進地視察など準備を開始したが具体的にはこれから。
- ・「お年寄りや子どもに寄り添う村づくり」は、小中学校給食費の第三子以降無償化を実現。児童クラブ利用料の値下げは来年度予算で計上する予定。公設学習塾の開設は今年度、夏休みの3日間試行、好評のため来年度以降、実施期間を含め拡大していく予定。買い物巡回バスの運行は交通事業者と協議を進めており、来年度試験的に運行を開始する予定。
- ・「地域産業を守り育てる村づくり」は、鳥獣被害対

策の狩猟免許取得等への支援を郡下一充実させたが、被害が減少しておらず大きな課題。白菜農家を中心とした労働力確保の仕組みづくりは検討を開始。お六櫛の原料のミネバリ確保は道筋を付けることができた。農産物加工センターの経営安定化は果たせておらず、指定管理者の指定替えを含め今後の大きな課題となっている。森林環境譲与税を活かした木工業の活性化は下流域首長と話をしているが、具体的な成果には結びついていない。下流域から受注を呼び込めるよう鋭意取り組んでいく。

- ・「地域が輝く村づくり」は、移住フェアに出向くなどし、何件かの実績もあるが大きな波にはなっていない。
 - ・「住民参加の村づくり」は色々な会議等で住民の方と意見交換しているが、自治会の集会等で要望や困りごとの把握ができておらず、今後の課題である。
- 以上、総括すると、公約に掲げた事項については、ほぼ手をつけることができ概ね7割近くは実現できている。

問 2回目の新年度予算、自身の2年目の目標について。

村長 2年目は特にライフライン、電線、電柱の障害木等、森林環境譲与税等を使いやっていく。道半ばや手をつけられていないものはしっかりと取り組んでいき、人口減少への歯止めの方策は、施策を重ね合わせ総合的に取り組んでいく。住民との対話を重視し、村内の新たな課題にも十分対応し、村民福祉の向上に注力していく。

意見 来年もこの村に住んで良かったと思える村づくりをしていただきたい。



田中寛幸 議員

地域おこし協力隊が活動し定着できる村に

答 地域で必要とする業務を相互理解した上で受け入れ、定着支援を図る

現在、木祖村には4名の協力隊員がいるが、都市部から過疎地域の条件が不利な地域に住民票を移し地域ブランドの開発・販売PR、農林水産業への従事支援を行いながら、その地域に定住定着を図る取り組みである。

問 任期を終える協力隊の定住、定着の意向について。

副村長 現在、対象となる隊員と本人の意向を踏まえ方向性の話をしているが、この村に定住し、村を拠点として活動していただくと認識している。

問 定住・定着の相談体制について。

副村長 定住していただけることが一番だと思っているが、色々な目的を持って活動しており、本人の考えを尊重しお互いに相談をしていくことが必要である。11月に県内で初めて、総務省地域創造アドバイザーを派遣いただき、職員向け、隊員向けの研修会を実施

した。雇用現場と協力隊、役場が親密に相談できる体制を作っていく。

問 起業、定住・定着に向けた支援体制（補助金等）について。

副村長 村には起業などに向けた支援補助金があり、国や県には創業支援制度などがある。卒業後の方向性により支援方法も変わってくるが、本人の考え方と周りのサポートが重要となる。定住に向けた、住宅確保等も含めて支援していきたい。

問 今後の協力隊の受け入れ体制と計画について。

副村長 隊員の意向にもよるが、農業振興については当面2名を維持していく。お六櫛職人の確保はインターンシップの応募状況を踏まえた募集や、政策課題に応じた募集を検討している。木工業振興は課題となっており関係者と相談しながら検討していきたい。



宮下孝次 議員

「新生児スクリーニング検査」追加検査の公費負担について

答 県の動向を注視、他市町村の情報を集め検討していく

問 県立こども病院が「新生児スクリーニング検査」の追加検査を行い「脊髄性筋萎縮症」の赤ちゃんが発見され、早期治療につながったとの報道があった。村では乳幼児健診を手厚く実施しているが、この追加検査を公費負担とすることで少子化・子育て対策、移住・定住対策として実施してはどうか。

住民福祉課長 追加検査の費用は6000円程度と思われる。国が疾病発見後のフォロー体制が整っている県に対しモデル的に2分の1の公費負担を検討中との情報があった。村の実績は把握していないが、県内にはかなり需要がある。村では県の動向を注視、他市町村の情報を集めながら検討していきたい。

問 乳幼児健診の充実は少子化・子育て対策及び移住・定住促進につながる対策として大変有効である。村としての方向性について。

住民福祉課長 今後の政策になるが、村では子育ての健診は手厚く実施しており、さらに何ができるか検討していきたい。

5歳児（年長）検診の公費負担について

問 県内では小中高校生の発達障害が前年より多く診断されている。現在、母子健康法により1歳6ヶ月児と3歳児健診が市町村に義務化され公費負担となっているが、5歳児検診により小学校入学前に早期発見ができる。村の公費負担の対応について。

住民福祉課長 村では4歳児に臨床心理士と保健師に

よる子育て相談を行っており、年中児に行うことで不安を解消しスムーズな就学につなげている。国では新たに1ヶ月児と5歳児検診費用を助成する動きがある。出生から就学後まで切れ目のない支援が大切であり、積極的なPRに努め、更に取り組みを進めていく。

要望 村が手厚い乳幼児健診等の対策をしていることを広く発信、PRすることで村の対策として効果が得られるので積極的な対応をお願いしたい。

高齢者の虚弱化対策、健康寿命延伸の取り組みについて

問 今、医療保険、介護の現場で高齢者の体の機能や認知・精神機能の低下等の虚弱化（フレイル）が大きな問題になっている。健康と要介護の中間の高齢者に適切な対策を行えば健康寿命が延びるとされている。

高齢者の健康維持は村の課題でもあり、村の認識・取り組みについて。

住民福祉課長 村の課題は高齢者の健康維持と要介護になるまでの間を長くする取り組みをどう行うかである。64歳までは生活習慣病予防、65歳以上は要介護にならないよう社会との繋がりを意識しながら理学療法士や健康運動指導士による各種教室等を行っている。40～64歳までは高血圧や高脂血症が多く成人期からの速歩等の教室を行っている。引き続きフレイル予防、高齢者の健康維持、介護予防対策の推進を図るために令和6年度の健康福祉計画に盛り込んでいく。



深澤 衞子 議員

来年度予算にむけて

【答】アンテナを高くして事業の予算化に努める

問 就任1年が過ぎ、もう1年なのか、まだまだ1年なのか思いをお聞きしたい。

村長 様々なことが副村長時代と異なり、初めて経験することもあった。公約した事業にほぼ手をつけることができ7割余りを実現できた。1年目としては及第点を与えて良いかと思う。挨拶回りや県内外など様々な行事等に積極的に出向き、留守にすることもあった。これからは住民の皆さんと接する機会をより多くしていきたい。

問 唐澤前村長がお亡くなりになり、柱が1本なくなったと思う。唐澤さんの思いを心に秘め、みんなで前進する村作りに貢献していきたい。1年目の事業でこれが一番の事業は何か。

村長 ハード事業では、大雨の度に氾濫した五月日地区クルマ沢は村単で事業化をした。宮の森は、県の中山間事業で事業化となった。県職時代の繋がりが生き

た。ソフト面では3日間の公設学習塾は生徒や保護者のアンケートの結果、高い評価をいただいた。

問 住民に寄り添う行政のあり方を改めてどう捉えているか？

村長 住民の困りごとを、私を含め役場職員が把握し福祉の向上に資する施策の展開が重要であると考え。これから予算編成作業が始まるが、議員が提案していた補聴器の補助やワクチンの接種補助などは村がどういう支援をすれば喜ばれるか、アンテナを高くして事業の予算化に努める。

意見 各地域に担当の職員が2名配置されているが、地域の方々に顔を覚えてもらい、困りごとを把握し地域の福祉向上に努める体制を作っていただきたい。村長として自分の熱い思いを入れたご挨拶を住民や子どもたちに伝えていただきたい。

木 祖 村 議 会 全 員 協 議 会

12月会議

令和5年12月15日(金)
役場 2階大会議室

協議事項

① 令和6年度当初予算編成方針について 総務課

村長から「第2次木祖村まち・ひと・しごと創生総合戦略」各事業の検証を踏まえた重点取組の説明があり、令和6年度は「村民の暮らしを守る」ことを最優先に防災対策や村民の暮らしの維持・向上を図る施策の推進、木曽川下流域との交流を深化し関係人口増加の取組み、気候非常事態宣言を発出した村として小水力発電をはじめ再生可能エネルギーの活用の検討を進める。

② 消防団再編のスケジュールについて 総務課

現在の木祖村消防団体制の課題（全ての分団で人数が減少し、災害時だけでなく訓練や火の元点検、警戒などの活動に支障がある）や再編に向けての再編案及び現在までの経過について報告があり、消防団再編に向けて当初予定より時期を早め、令和6年度から分団再編を行うと説明があった。今後、住民へ行政懇談会において周知を図る予定。

③ 行政懇談会について 総務課

令和5年度行政懇談会を2月に村内10会場で4日間の日程で開催の予定。

④ 国保税率の改定について 住民福祉課

国保の「年齢構成が高く、医療費水準が高い」「市町村間の格差」等の構造的課題と国民健康保険制度改革の概要の説明があり、木曽圏域の保険料を統一することから令和6年度から標準基本料率を基準に毎年改定を行う予定。

⑤ 国道19号やぶはら改良の進捗状況について 建設水道課

国道19号やぶはら改良工事の進捗状況について説明があり、コア山地盤改良工事を継続中及び令和6年秋頃からトンネル掘削作業を行う予定。

⑥ 公民館藪原分館とわら原分館の統合について 教育委員会

木祖村公民館「藪原分館」と「わら原分館」の統合を今後、行政懇談会等での周知を図り令和6年4月より実施の予定。

松塩筑木曾老人福祉施設組合議会の報告

令和5年11月20日(月)
塩尻市健康福祉センター

11月定例会が開催され慎重に審議し原案通り可決。議案第1号令和4年度松塩筑木曾老人福祉施設組合一般会計歳入歳出決算の実質収支額を1億4,915万6,748円とし可決。議案第4号令和5年度松塩筑木曾老人福祉施設組合一般会計補正予算(第1号)は、歳入歳出それぞれ1億1,900万円を追加し、総額43億2,900万円とした。

議案番号	件名	採決等結果
議案第1号	令和4年度松塩筑木曾老人福祉施設組合一般会計歳入歳出決算認定について	可決
議案第2号	松塩筑木曾老人福祉施設組合一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可決
議案第3号	公平委員会委員の選任について	可決
議案第4号	令和5年度松塩筑木曾老人福祉施設組合一般会計補正予算(第1号)	可決
報告第1号	管理者の専決処分事項の指定に係る報告について	

定例会閉会后、議員全員協議会が開催され、令和6~8年度実施計画策定について①人材確保のための採用活動強化。②介護人材確保と定着のための特定技能外国人の受入体制強化。③サービス向上と職員負担軽減のための介護ロボット・入浴支援装置の導入。の3点を重点に策定したとの説明があった。また、「組合のあり方に関する指針」について第六次基本計画期間内で解決すべき課題の報告に対し、木曾地域の議員から、木曾あすなる荘の存続や郡内施設現場への情報伝達の徹底、地域の家族構成等を考慮したセーフティネットのあり方、職員の働きやすい環境の確保等に関わる意見が出されるなど、活発な議論が交わされた。

木曾広域連合議会第4回定例会議の報告

令和5年11月28日(火)
木曾文化公園

第4回定例会議は条例改正2件、令和5年度補正予算3件について、慎重審議を行い原案通り可決し同日閉会した。

議案番号	件名	採決等結果
議案第29号	令和5年人事院勧告に伴う関係条例の整備に関する条例について	可決
議案第30号	木曾広域連合副管理者の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第31号	令和5年度木曾広域連合一般会計補正予算(第4号)	可決
議案第32号	令和5年度木曾広域連合介護保険特別会計補正予算(第3号)	可決
議案第33号	令和5年度木曾広域連合下水道事業会計補正予算(第1号)	可決

活動報告

白馬岩岳マウンテンリゾート議会視察 令和5年10月23日(月)・白馬村

10月23日(月)に白馬岩岳マウンテンリゾートの議会視察が行われ6名が参加しました。

現在、木祖村では利用客が減少しつつあるオンシーズンのやぶはら高原スキー場の在り方を議論していますが、白馬岩岳の成功事例に学び、得られる知見を今後の議論に活かしていく目的で視察を行いました。オープンは2年前。北アルプスに向け飛び出すように乗る絶景ブランコや絶景カフェ&テラスのTVコマercialでご存じの通り、アクティビティ施設や洒落たレストランやカフェなどを造り、グリーンシーズンに20万人を集めている今注目の山岳リゾートエリアです。



各施設のお客様を引き付けるイメージ戦略と先見性のあるマーケティングに感心、グリーンシーズンに社員30名と臨時30名の雇用を生み出し、県外雇用が中心ではなく8割が白馬村出身者で地元雇用率の高さに驚かされました。

和田前社長が革新的なアイデアと

新たな価値観によりオールシーズンのリゾート開発に成功、やぶはら高原スキー場の場合はどうか? と思いを馳せるなど大変参考になりました。白馬村は立地やインフラ等のポテンシャルが高く、やぶはら高原スキー場で同様の開発ができないことは明らかですが、令和6年度中に設備投資が規模縮小・廃止するか方向性を決めることにしており、大きな岐路にあることは間違いありません。奥木曾湖・こだまの森を結んだ活性化施策が進みつつありますが、和田前社長が展開したような新たな発想によるグリーンシーズンのスキー場活性化施策をやぶはら高原スキー場に置き換え、規模に関わらず創意・工夫、関係する皆さんの英知を結集して検討、具体化につなげていくことが喫緊の課題ではないか、と切迫感に似た感想を持ちました。議員の立場で視察の成果をこれからの議論に反映できるよう、決意を新たにしたい大変有意義な議会視察でした。



やぶはら高原スキー場安全祈願祭 令和5年12月11日(月)・やぶはら高原スキー場

前日の雪が若干残る良い天気の中、12月23日(土)のオープンに向け、場内のスキー神社前で恒例の安全祈願祭が行われ、関係者約30名とともに議員全員が参加しました。奥木曾グリーンリゾート(株)川口社長から

昨年のお客様の来場の状況や「顧客ファースト」を目指す今シーズンの方針について挨拶があり、より多くのお客様の来場と安全に今シーズンを終わられるよう祈願をしました。

やぶはら高原スキー場2024シーズン開幕前夜祭「総決起集会」 令和5年12月11日(月)・木祖村老人福祉センター

安全祈願祭に引き続き、初めての企画として「総決起集会」が午後から開かれ、飲食・宿泊・観光関係者とともに「あり方検討会」委員の議員を含め約40名が参加しました。(株)野沢温泉の片桐社長の講演と(株)プラチナ研究所の平尾社長の解説が行われ、片桐社長の「スキー場再生は地域協働の成果！」の講演に多くの参加者が感銘を受けていました。村では今シーズン

終了後にスキー場の方向性を判断するとしており、奥木曾グリーンリゾート(株)から「やるべきことは全てやる」と力強い決意が述べられました。

また「この冬を最高のシーズンにする！」をテーマに各関係者の代表による決意表明が行われ、2024シーズンに向け、参加者全員のシュプレヒコールで氣勢を上げ、熱気あふれる中、成功裏に終了しました。

住民と議員の懇談会 日程・下記記載日 場所・各公民館等

地区の会合へ議員が参加させていただき、懇談を通じて地域の課題や議会への意見などを伺い、今後、地域の皆様が安心・安全に暮らせるよう議会として行政へ要望等を行うことを目的に開催しています。(実施分下記)

■10-2区 令和5年12月9日(土) 青年の家
20名(内議員6名 奥原、清水、田中、深澤、大久保、宮下)
【主な内容】・10区の公園の維持管理のあり方
・道の駅の諸状況について
・移住、定住について

■18区 令和5年12月15日(金) 北部公民館
21名(内議員6名 栗屋議長、安原副議長、田上、奥原、大久保、清水)
【主な内容】・緩衝帯整備箇所草刈り作業の推進

・有害鳥獣対策の推進
・区民の減少による経済的問題や公民館の維持管理など行政区のあり方などの要望意見

■19区 令和5年12月16日(土) 北部公民館
17名(内議員5名 栗屋議長、安原副議長、奥原、大久保、清水)
【主な内容】・大雨災害箇所の整備(カルト沢・薄林沢等)
・有害鳥獣対策の推進
・細島橋付近のカラマツ伐採
・小水力発電事業推進
・道の駅へ農産物出荷の際の注意による出荷意欲減退
・地元以外農産物販売への意見

令和6年度消防団出初式 令和6年1月6日(土)・社会体育館

午前10時から社会体育館において消防団出初式の式典及び表彰式が開催され、議長・副議長・消防委員の5名の議員が出席しました。これまで長きにわたり活躍された現職の2分団長高柳政次氏が1月2日ご逝去され、出席者全員で心よりご冥福をお祈りし黙とうを捧げました。その後、笑ん館前で挙行された分列行進には多くの地域住民の皆さんが参観し、消防団への期待を感じることができました。



第18回長野県地方自治政策課題研修会 令和6年1月19日(金)・役場2階

毎年恒例になっている地方自治政策研修会が、県会場の長野ホテル国際21からYou Tubeライブ配信により開催され8名が参加しました。来賓の阿部知事の挨拶があり、喫緊の課題であるだけに興味深く聴講しました。

・講演「人口減少と少子化対策について
～異次元の少子化対策とは～」
・講師 内閣官房参与(社会保障・人口問題担当)内閣官房全世代型社会保障構築本部統括事務局長 山崎 史郎氏

元氣発見!

むらびと大図鑑

木祖村猟友会会長
かみむら けんいちろう
上村 憲一郎さん

上村さんは昨年春、木祖村猟友会の会長に就任され、射撃の腕前は一流で中部6県の大会で優勝された実績があり、猟友会のみならず、村で今年から行う事としている鳥獣追払い隊での活躍にも大きな期待がされています。上村さんに新年の抱負、猟友会の活動、鳥獣被害対策への思いなどについて語っていただきました。

猟友会に入り早19年、射撃と狩猟を沢山学んできました。大会で優勝できたのも先輩方の指導と仲間のおかげで日々感謝しています。狩猟中に山で亡くなった私のおじさんには多くを教えてもらい、天国で「憲一郎が会長かよ」って笑っている事と思います。おじさんに恥じぬよう木祖村猟友会は俺が引っ張っていくで、見とって!

沢山の方々に支えられ猟友会長になった事を誇りに思い、やりたい事が沢山、やる気は満々にあります。今問題の農作物の鳥獣被害ですが、農政懇談会に出て農家の皆さんが猪、鹿、猿の被害で死活問題になっており、思っていたより深刻でした。猟友会で何が出来るか、有害鳥獣を駆除する個体数調整しかありません。罠をかけるのは少し難しく時間がない等の問題も解決していきたいと思っています。ただ理解してもらいたいのは、猟友会は動物を単純に殺す団体ではない事です。鳥獣を保護するのも猟友会で、なくてはならない存在で、誰かがやらなければならない事を猟友会が行っているのです。増え過ぎた個体の駆除は猟友会の使命だと思っています。

皆さんは鹿食免、鹿食箸を知っていますか? 諏訪大社でお札で売られており、捕獲した動物が人間の身になって人と同化して成仏できると書かれています。動物を捕獲した時には個体に感謝の意を込めて合掌しています。これは誰かに教わった訳ではなく自然に合掌し、ありがとうと語りかけています。捌いて食べる、それが供養だと思っています。冬の猪、熊は美味しく夏の猪も料理の仕方美味しくなります。



今は猟期真っ只中で、熊とりの大先輩加藤さんに色々教えてもらっています。元気な大先輩で捕獲する頭数は加藤さんに叶う人はいません。猟期中は家族の用事をすっぽかし山三昧で、怒られる事も多々あり猟欲がすぎる会長かもしれません。

今年、木祖村初となる女性会員2名に入りました。これからクレー射撃、狩猟、有害鳥獣駆除も指導していきたいと思っています。村から猟友会に手厚い協力をいただき感謝しており、今後も村の鳥獣対策、追払い隊に猟友会として協力していきたいと思っています。個体数を減らし木祖村の美味しい農作物の被害が減少するように努めていきますので村民の皆様のご理解をよろしくお願いします。この村に生まれ、猟友会会長になった事、支えてくれる多くの方々に感謝し1日1日を大切に生き、生涯、木祖村猟友会員でやっていけたらと思っています。

自己紹介

①年齢 ②住所 ③新年の抱負 ④猟友会の目標 ⑤自己PR

上村 憲一郎さん

①48歳

②木祖村営4区

③会長として村民、全国の大日本猟友会員に恥じぬよう精一杯できる事はしていきたい。

全国大会に行けるようにクレー射撃を頑張るとともにと新人に指導していきたい。

④捕獲頭数をあげ農作物の被害を減らし、猟友会でできる事で村に協力する。クレー射撃の大会で団体優勝し優勝旗を役場に飾ってもらう。

⑤会員1人1人が楽しく、わだかまりのない猟友会を作っていきたい。



本年もよろしくお願い申し上げます。新年早々、大きな出来事が続きました。能登半島大地震、羽田の飛行機事故。それから現職の役場職員、高柳政次さんのご逝去でした。産業振興課で活躍していただけに大変残念でした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。新春狼煙揚げでは実行委員会の湯川会長から狼煙の煙が災いを吹き飛ばしてほしいと挨拶があり、全員で立ち上る狼煙にこの一年の安寧の願いを託しました。今年も村にとって大変な一年になりそうです。人口が2600人を割り込み、少子高齢化が一層進むなど厳しい環境が続き、安心・安全な村づくりのための対策は待たなしの状況にあります。新年を迎え、議会は村と村民をつなぎ、よりよい村づくりをしていくために議員全員が気持ちを新たにしているところです。また、議会だよりの一層の充実を目指していきますので、お気軽にご意見・ご要望をお寄せいただきますよう、よろしくお願い致します。



木祖村議会報編集委員会 委員長 宮下孝次 委員 安原千佳世 清水えり子